

# 令和2（2020）年度 事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

公益財団法人 全国里親会

## 令和2（2020）年度 事業報告

令和2年度は、各都道府県政令指定市において前年度末までに策定された社会的養育推進計画に沿って「家庭養育優先原則」を徹底し、子どもの最善の利益を実現していく事業がスタートする一年間となった。各自治体の社会的養育推進計画を見ると、3歳未満の里親委託率を令和6年度中に75%に、3歳以上就学前の委託率を令和8年度中に75%に、就学児童については令和11年度中に50%にするという数値目標をすべて達成しているところは1県4市にとどまり、厚生労働省はそれぞれの自治体における数値の計算過程や里親支援体制などの取り組み内容を含めた項目を公表するとともに、財政面の支援の活用も含め更なる取り組みや委託率の目標値の引き上げについて個別に助言等を実施している。公益財団法人全国里親会としても、各里親会による里親リクルート活動の増進を図るため、前年度に引き続き里親リクルート助成事業による支援を実施した。

里親手当が令和2年度から増額された。会員の意見や要望を取りまとめて厚生労働大臣に「要望書」を提出したり、当法人主催で「里親制度研修講座」を開催するなどの公益事業活動が実を結んだものと捉えており、大きな意味を持つ評価される内容となった。

養育里親手当	¥90,000-(¥4,000-UP)	2人目以降同額(従来は半額)
専門里親手当	¥141,000-(同上)	同上

平成28年に内閣府の勧告を受けて以降、助成や補助が打ち切られ、かねてから厚生労働省より財務体質改善を求められる中、会費改定の検討を進めてきたが、今年度より会費値上げを実施した。値上げには各里親会における大変な努力が必要であったと理解しており、それぞれの里親会のみなさんの尽力に感謝したい。

一方、日本財団からの支援を復活することができた。これまで、子どもの家庭養育推進官民協議会など各会議における協働やフォスタリンググッズ配付などで関係再構築を図ってきた成果といえる。

その日本財団からの支援を受けて新型コロナウイルス感染症対策事業をとして、各里親会に通信機器(タブレット)、衛生用品(非接触体温計、消毒液、各種サイズのマスク、衛生手袋、防護エプロン)を配付した。これは、日本財団と元スマップのメンバー、稲垣吾郎氏、草彅剛氏、香取慎吾氏によるユニット「新しい地図」とが共同で立ち上げた「LOVE POCKET FUND」(愛のポケット基金)に寄せられた資金によるもので、配付は2度に分けて実施した。7月に実施した1回目の配付では時間的制約からそれぞれの里親会の会員数に沿って配分した数量を送付したが、2回目の配付では初回の振り返りを活かして各里親会から寄せられた希望数量を配付することができた。

新型コロナウイルス感染症に対しては、公益財団法人全国里親会の活動においても様々な対応が必要となった。全国里親会会長会議&研修会や里親制度研修講座、理事会、各委員会などはオンライン開催、あるいはオンラインと会場のハイブリッド開催とした。また、各里親会の新型コロナウイルス対策などの活動推進を支援すべく都道府県市里親会活動推進費制度を新たに導入した。

令和2年12月に第三者委員会が解散された。公益財団法人全国里親会が新しい組織に生まれ変わって速やかに第三者委員会が設置されてから4年を経て、同委員会から解散の提案があり、それを受け所定の手続きに沿って決定されたもの。第三者委員会は委員長渋谷幸夫氏をはじめ4名の委員で構成され、その設置以来、会計処理や公益財団法人としての手続きが適正に処理されているか、財務基盤の確立が図られているか、諸規則の整備状況など幅広い検証をおこなってきた。平成30年12月に実施された内閣府の検査で「適正」との評価を得ることができ、その後も法人運営の基礎が整備され適正なコンプライアンス、ガバナンスが構築された、と判断され、解散の提案がなされたもの。

ここまで一歩ずつ進んでくることができたのも、ひとえに全国の会員はじめ、パートナー機関や行政のみなさん、さまざまな支援者のみなさんのおかげと感じる。改めて、この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたい。

## [公益目的事業]

- 1 里親制度に関する調査研究事業（公1）
- 2 里親の育成事業（公2）
- 3 里親制度の普及啓発事業（公3）
- 4 里親の永年表彰事業（公4）
- 5 里親に関する相談指導事業（公5）
- 6 東日本大震災における孤児及び里親に対する支援事業（公6）

引続き、令和2年度に実施した事業内容について、上記のそれぞれの公益目的事業に沿って報告する：

### 1 里親制度に関する調査研究事業（公1）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて5月に緊急調査を実施。里親家庭における感染対策の状況や委託への影響などを調査した。10月には、里親への一時保護が増加を続けている状況を踏まえ、各都道府県市における里親への一時保護委託の詳細を調査した。また、2月には里親家庭で育った児童の自立状況について現状や課題に関する調査を実施した。

### 2 里親の育成事業（公2）

里親会活動による里親支援や里親会の活動の活性化、里親の養育技術向上のための研修等の実施状況は以下のとおりであった。

#### ① 第65回 全国里親大会徳島大会（公2・公4）

徳島県徳島徳島市において10月3日(土)、4日(日)に全国里親大会を開催し一般への里親制度の周知を図るとともに基調講演・分科会等により既存の里親への研修を行う予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない中止となった。

- ・開催日程：令和2年10月3日(土)、4日(日)
- ・開催場所：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
- ・開催里親会：徳島県里親会

#### ② 地区里親研修会開催事業（公2・公4）

全国8ブロック(北海道、東北、関東甲信越静、東海・北陸、近畿、中国、四国、

九州)において里親研修会を開催し、里親制度の促進に功労のあった里親及び関係者の表彰(公4)を行うとともに、里親が抱える様々な問題についてテーマごと分科会等による検討会や里子の養育に関する諸問題についての研修を行うべく準備を開始していた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、8ブロックいずれも開催中止が決定された。

### ③ 全国里親制度研修講座の開催(公2・公4)

社会的養育の理念や里親制度の内容が広く社会に理解され、ひいてはこどもの最善の利益を社会全体で実現する動きがより強固なものになると同時にひとりでも多くの方が里親に手をあげてくれることを目的に里親制度研修講座を開催した。前年に続く第2回目の開催は、徳島県で予定されていた全国里親大会が中止されたことを受けて同大会の分科会としての位置づけも持つこととなった。また、会場とオンライン会議システムを併用するハイブリッド開催となった。

開催日 : 令和2年10月27日(火)

開催場所 : 衆議院第一議員会館大会議室、およびオンライン併用

### ④ 都道府縣市里親会 会長研修会

各都道府縣市里親会の会長・役員・事務局を対象とした研修会を前年度に引続き年間2回開催した。「社会的養育」変革期に各里親会会長の認識を確かなものとし、その認識に基づき今後の里親会運営を時代に合った内容とすること、ならびにお互いの活動内容やどんなことで苦労し、それをどうやって乗り越えているか等を報告・共有することでそれぞれの里親会活動のさらなる高度化・活性化を目指した。第1回は里親制度研修講座の前日と当日午前中に同じ会場とのハイブリッド、第2回はオンラインのみの実施。なお、前年度同様、2回とも代表者会議と併せて開催した。

第1回 開催日 : 令和2年10月26日(月)、27日(火)

開催場所 : 衆議院第一議員会館大会議室、およびオンライン併用

第2回 開催日 : 令和3年2月13日(土)、14日(日)

開催場所 : オンライン会議システム

⑤ 第3回里母の集い in あいち 予定日 令和2年8月29日、30日

第4回里母の集い in ぶんおか 予定日 令和3年12月12日、13日

日本では未だに里子の養育に中心的存在としてかかわることの多い里母に向けた研修会。前年度2月に開催を予定していたながら新型コロナウイルス感染症の影響で8月に延期されていた愛知県と、令和2年度開催として準備を進めた福岡県のそれぞれで開催を予定したが、残念ながら、いずれも中止せざるを得なかった。

⑥ 「新型コロナウイルス対策に係る衛生用品配付およびオンライン環境の整備」事業

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、里親家庭内での感染予防、里親家庭で陽性者が出た場合の対応などが論じられる中、必要な衛生用品の提供が課題となった。同時に外出の制限が伴う中、里親家庭の孤立を防ぐべく、オンラインによる研修・面談などの環境整備も課題であった。そのような中、稲垣吾郎、草薨剛、香取慎吾による「新しい地図」と日本財団が共同で立ち上げた「LOVE POCKET FUND」(愛のポケット基金)の支援を受けることができ、至急準備を進めて7月に以下の物資を配付した。

タブレット型端末	130 台
非接触体温計	260 台
手指用消毒剤	650 本
マスク(大人用)	21,000 枚
マスク(S サイズ)	21,000 枚
マスク(こども用)	14,700 枚
防護エプロン	4,200 枚
衛生手袋	39,000 枚

(非接触体温計は商品が不足していたため、260 台のうち 200 台を7月中に出荷し、残りの 60 台は 11 月に配付した。)

第2回の配付を12月に実施した。その際、1回目の配付のあとに寄せられた会員からの声を踏まえ、各里親会の希望数量を事前に聴取し、その希望に沿って、以下を配付した。

マスク(大人用)	66,350 枚
マスク(S サイズ)	33,900 枚
マスク(こども用)	20,825 枚
防護エプロン	9,840 枚
衛生手袋	37,200 枚

この1年間、さまざまな分野でリモート化、オンライン化が求められる時期であった。公益財団法人全国里親会としても、10月と2月にオンライン会議システムを活用して都道府縣市里親会会長研修を実施したり、10月には、里親制度研修講座をこちらオンラインを使って開催するなどした。また、各里親会では、配付したタブレットを利用したり、各里親会が更に工夫をするなどして、それぞれが開催する里親サロンや会議をオンライン化することで、コロナ渦にあっても、活動を維持・継続できているところが多く見られ、心強く感じられた。

⑦ 各里親会が「里親支援機関」A型の指定を受けるため、活動資金を助成

公益目的事業2の実施主体となる各都道府県市里親会の活動を支援するための事業のひとつで、以下の目的を達成するための活動資金を助成する：

- i 各都道府県市里親会が「里親支援機関」A型の指定を受けるため
- ii 法人格を取得するため

以下のとおり助成した。

札幌市里親会 15万円

⑧ 里親リクルート活動に対する助成

各都道府県市里親会の活動を支援するための事業のひとつで、『(既存)里親が(新規)里親をリクルート』を合言葉に、都道府県市里親会の里親リクルート活動に対して助成した。

1人当たり 5,000円 対象者数 189人 総額 945,000円

⑨ 都道府県市里親会活動推進費制度による助成

各都道府県市里親会の活動を支援するための事業のひとつとして令和2年度から新しく開始した助成制度。都道府県市里親会が里親家庭を支援する活動を推進するため、要した費用の一部を助成する。

1里親会あたり 10,000円 総額 250,000円

⑩ その他

ア 奨学金関係

- i 奨学金関連情報を周知
- ii 奨学金取扱事務：ENEOS 奨学助成者 128人

イ セイバンランドセル贈呈協力

(株)セイバンが里子にランドセルを寄贈するに当たり、ランドセルの希望受付・配布と寄贈主(株)セイバンに感謝状贈呈。例年は、式典(大阪市内)に出席していたが、今年は開催されなかった。

3 里親制度の普及啓発事業(公3)

① 機関誌「里親だより」の刊行

里親に関する情報の提供、里親制度や養育上のQ & A、地区の活動状況の紹介などを編集し、会員等に配付した。

発行年4回（5月、8月、11月、2月）、

A4版 16頁

配布先 里親会、全国里親会会員、都道府県・市、児童相談所、乳児院、児童養護施設、その他（関係機関、団体等）

ホームページに掲載

発行部数 各回 9,000部

編集委員会の開催・取材等

② 月刊誌「マンスリー」の発行

毎月10日発行を目途に、社会的養育に関するトピックスを取り上げ、マンスリーニュースを発行し、各里親会へ配付するとともに、メーリングリストで配信、ホームページ掲載等により情報提供を行った。

③ ホームページ・メーリングリストの活用

全国里親会の活動状況、全国の地区里親会活動状況やイベントの開催情報（開催時期、募集等）の掲載、会員の動向・会員向けの情報提供サービス、など最新情報を提供した。

④ 広報用パンフレット・リーフレットの配布を行った。

⑤ 他団体との連携

ア ファミリーホーム協議会総会・大会参加

イ 協力機関との連携：日本フォスターケア研究会・日本子ども支援協会・全国家庭養護推進ネットワーク

ウ 全国児童家庭支援センター協議会との協定に基づく事業

⑥ 各種会議への参加

ア 厚生労働省：社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会

イ 自由民主党：児童の養護と未来を考える議員連盟

ウ 超党派：児童虐待から子どもを守る議員の会

エ 日本財団：子どもの家庭養育推進官民協議会

オ 全国社会福祉協議会：全国退所児童等支援事業連絡協議会



⑦ 各種選考委員会へ委員としての参加

- ア 厚生労働省：里親制度広報啓発事業者選考委員会
- イ 全国社会福祉協議会：ワバツ「チャリティースマイル」選考委員会
- ウ 全国社会福祉協議会：ENEOS 奨学助成選考委員会

4 里親の永年表彰（公4）

第65回全国里親大会徳島大会にて功労者に対し公益財団法人全国里親会会長表彰と記念品を授与する予定であった。しかしながら同大会の中止にともない、10月26日(月)に都道府県市里親会 会長会議&研修会の中で式典の場を設けて授与するとともに、一部出席できなかった授与者には送付した。

全国里親会	会長表彰	64組	121名
全国里親会	会長感謝状	6組	10名

なお、5年に一度授与される厚生労働大臣表彰についても、同様に授与した。

厚生労働大臣表彰	39組	73名
厚生労働大臣感謝状	55組	103名

5 里親に関する相談・支援事業（公5）

① ホームページの管理・更新

全国里親会の活動状況、会員の動向・会員向けの情報提供サービス、地方里親会の事業の開催状況（開催時期や募集等）などリアルタイムで最新情報を提供した。

② メーリングリストによる情報交換、質疑応答、意見交換などの管理を行った。

③ 電話・メールによる問合せ・相談等に適切に回答・支援を行った。

6 東日本大震災及び災害における被災児童と里親に対する支援事業（公6）

① 東日本大震災の被災児童に対する支援を引き続き実施した。

- ② 被災児童を養育している親族里親の方への生活支援として、養育費等一世帯  
20万円の支援金を支給した。

20件 400万円

- ③ 里親子クリスマス会への協力

東日本大震災による被災地である仙台市ほほえみの会 が開催する「クリスマス会」を支援してきたが、本年は新型コロナウイルスの影響でクリスマス会の開催に代えてプレゼント配付事業を実施したので、その経費の一部を負担した。

クリスマスプレゼント配付事業への支援 助成額 15万円

- ④ その他大規模災害に対する里親及び児童等に対する支援

該当する里親家庭がなかったため今年度は実施せず。

以上

## 7 理事会・評議員会等開催状況

会議等事業	開催日時	開催場所	議 題
臨時評議員会	4/17 15～17時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 次期理事改選について 2 次期監事改選について
(第1回) 決算理事会	5/27 15～17時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 令和元年度事業報告 2 同収支決算、監査報告 3 全国里親大会徳島大会 4 各地区ブロック研修大会 5 各委員会計画について 6 新型コロナ会費納入期限緩和 7 次期役員、評議員について
臨時評議員会	6/4 10～13時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 次期役員選定について 2 その他
定時評議員会	6/13 10～12時	京都市聞法会館	1 令和元年度事業報告 2 同収支決算、監査報告 3 役員変更登記 4 評議員、理事、監事就退任報告 5 その他(要望書等)
第2回理事会	6/13 13～15時	京都市聞法会館	1 新理事、監事、評議員 2 会長、副会長選任(互選) 3 令和2年度事業計画報告 4 令和2年度事業予算報告 5 コロナ対策、国への要望
第3回理事会	7/14 13～15時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 厚労大臣要望について 2 新型コロナウイルス対策 3 里親リクルートのあり方
臨時評議員会	9/20 10～12時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 会長会議&研修会、里親制度 研修講座について 2 常務理事採用について 3 その他(広報、オンライン等)
第4回理事会	9/2 10～11時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 令和3年度事業計画策定 2 同予算案策定について 3 常務理事と事務局体制強化 4 広報誌「里親だより」
第5回理事会	9/25 10～11時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 常務理事起用について 2 事業報告等の内閣府提出 3 会長会議&研修会、里親制度 研修講座について

第6回理事会	11/24 15～17時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 補正予算について 2 令和3年度事業計画、予算 3 各委員会人選について 4 令和3年度全国大会について
第7回理事会	12/23 10～12時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 会長会議&研修会について 2 里親養育・里親相互相談事業 3 第三者委員会の解散について
第8回理事会	3/11 14～16時	全国里親会事務局 オンライン開催	1 令和2年度補正予算案 2 令和3年度事業計画、同予算 3 里親養育・里親相互相談事業
業務執行理事会	10回/年	オンライン開催	各事業の進捗に応じて都度、必要な内容や実施体制などを協議・検討し方針を定めた。